

私たちは 社会を支えている

株式会社日比谷コンピュータシステム

代表取締役社長 畠山 幸雄



株式会社日比谷コンピュータシステムは 1970 年 10 月 16 日に設立し、50 周年を迎えることができました。50 年続けられたことは社員、諸先輩、お取引先様、株主様などの関係各位の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

真のスペシャリストとして 視野を広く持つ

1981年に株式会社日比谷コンピュータシステムに入社して以来、技術職一筋でやってきました。ここまで来るには技術革新や市場の変化との戦いでもありましたが、一番記憶に残っているのは2002年にチャレンジしたプロジェクトです。当社は汎用機のCOBOLでの開発を主としていたなか、大規模な開発で初めてJavaを使用しました。何度も設計・製造工程を繰り返しながら本番を迎えたものです。会社としては大変な損失を招き、メンバーには大変な苦勞をさせることになりましたが、プロジェクト全員の頑張りでやり遂げることができたのは大きな一歩だと思っています。最終的にお客様からいただいた感謝の言葉は、今でも忘れません。翌年の新人研修からJavaを組み込み、後にはシステム開発研究所が創設されました。ERP事業の開始も同時期で、思えばここが当社のターニングポイントのひとつだったのかもしれない。

ホールディングス化が行われ、当社はグループの中核会社としての重責があります。長年培った強みを活かしつつ、HCSホールディングスのビジョンと中期経営計画を念頭におき、社員一人ひとりが技術力を向上させる必要があります。特に考えてい

たきたいのは「顧客満足のはき違え」をしないことです。お客様のニーズに応えるのは大前提で、より良い未来のために付加価値をつけて提案できるのが真のシステムエンジニアではないでしょうか。実は私も若かりし頃、担当者の要望だけに耳を傾けて設計し、その担当者の上長に大変お叱りを受けたことがありました。私の場合、エンジニアとしての視野の広さが身に付いたのはお客様のおかげといっても過言ではありません。

日々の努力と信頼関係を 忘れてはならない

当社が提供している基幹システムを核にしたシステムインテグレーションビジネスは、目に見えない製品ゆえに生活のなかで目にする機会はありません。しかし、実は社会との接点は非常に広く、深いものです。たとえば電力なら安定的な電力供給を支えており、鉄鋼においては自動車、鉄道、工場、ビルなど社会インフラを支えています。私たちが社会に必要とされている業務に携わっているということを常に意識し、仕事に対する誇りを持つべきだと思います。

50年変わらずお客様からお褒めの言葉をいただけるのも、長年の積み重ねと信頼関係の賜物だと感じています。今後もお客様と真摯に向き合い、ご満足いただけるサービスを提供し続けることが、ひいてはHCSホールディングスグループの次の50年の発展につながるはずです。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。